

松井名誉会長の思い出

芳賀孝行

060-0008 札幌市中央区北8条西25丁目1-10

私にとって、松井先生は日本白鳥の会の松井さんというより、事業主としての松井先生の方が印象深いものがあります。

私が松井先生と初めてお会いしたのは1962年4月でした。当時松井先生は網走市内で整形外科医を開業していて、事務員募集のおりに中学卒業したての私が応募し面接を受けたのが最初でした。

私は身長が低いため、与えられた白衣がくるぶし近くまであり、そのことは松井先生に事あるごとに言われて笑われたものでした。その頃の松井先生も若く、医師としての日常を精力的に送っていました。同時にハクチョウのシーズンには、診療時間前後に涛沸湖でハクチョウの写真を、蜃気楼の時期には蜃気楼が出たよと連絡が入ると、患者さんを待たせて写真をよく撮りに行っていました。

医院の2階が松井先生の住宅及び看護師さんの寮でした。看護師さんは二十歳前後の人が多く、私生活や仕事のことで応接室に呼ばれ叱られていましたが、私には、芳賀君は男だから叱るわけにはいかないと言われ、殆ど叱られた記憶がないこと、私が在職中最後まで仕事上のことでもよく私の話を聞いていただき、松井先生の下で仕事ができ楽しかったです。

私が松井整形外科医院に入って2年半後に札幌市内で病院を開設した時も、私は松井先生と行動をともにし、札幌へ転居しました。札幌で開業して数年後から、松井先生は精力的に全国のハクチョウ飛来地を訪れ、その土地でハクチョウの保護に当たっていた人の話を聞いたり、写真を撮ったりするようになりました。そして多くのハクチョウを保護されていた方々と日本白鳥の会を設立しました。日本各地で撮影したハクチョウの写真は、パネルにしてハクチョウたちのために使うお金にするからと、病院内で写真のオークションをしていました。

私が松井先生の私的なことをお手伝いするようになったのは、IWRBの大会を札幌で開催する直前の頃からです。最初はIWRB札幌会議の資料作りでした。その後日本白鳥の会総会や現地研修会と一緒にいくようになりました。松井先生は、これは自分の私的なことだからと私にかかる費用は全額松井先生が出してくださいました。病院の仕事と日本白鳥の会の事務的なことを同時に行うことで忙しい思いもしました。そのお陰で、日本白鳥の会の多くの人と出会い、ハクチョウの多くの飛来地にも連れて行っていただきました。

新潟の家田三郎先生が会長を辞して、松井先生が会長に選任された頃から本格的に

日本白鳥の会の仕事をするようになりました。東京都の日本青年館での総会に初めて出席し、研修会は宮城県の伊豆沼が最初で、事務の上で覚えていた名前の多くの方々と初めてお会いしました。この名前の方はこういう人だったのか、少しずつ名前と顔が一致するようになりました。

研修会も北は稚内の大沼、浜頓別のクッチャロ湖、南は滋賀県の琵琶湖まで行かせてもらいました。その土地その土地で歓待を受け、おいしいお酒を飲ませていただきました。

総会や研修会で松井先生が会員の方から用事を受けると、ほとんど芳賀にも話してください、私は忘れっぽいから、芳賀に話していれば必ず私に話が通じますからと、そのお陰で私はほとんど松井先生につきっきりが多かったように思います。

松井先生が病院の経営を息子さんに譲った後の1998年3月末で私は病院を退職し、松井先生とお別れしましたが、再就職が決まった時、先生とお会いした時も自分のことのように喜んでくれました。病院の退職者の集まりであるOB会で、先生と奥様とは数回お会いしましたが、先生には36年間お世話になりました。もう少し先生と私の新しい仕事のこと、ハクチョウのことなど色々お話ししたかったと後悔しています。

松井先生がお亡くなりになったことは、奥様から連絡をいただきました。先生は心臓のバイパス手術などをして心臓が悪いことは以前より承知していましたが、こんなに早く亡くなるとは思っていませんでした。最初は信じることはできませんでした。最初は信じることはできませんでしたが、先生のお宅の祭壇を見て初めて先生がもうこの世に居ないんだと実感し、祭壇に手を合わせました。

松井先生はこよなくハクチョウを愛していましたので、民話の日本武尊のようにハクチョウに化身して天国へ向かわれたのではと思います。そこでは、先に亡くなられた多くの先輩たちが待っていて、今頃ハクチョウ談議をしているのではと思っています。

松井先生のお陰でハクチョウのことに携わり有意義な時間、多くの仲間と知り合いお話しできたこと、そしてハクチョウ飛来地を巡ることができたことを感謝しています。

松井先生を陰で支えて来た奥様にも大変よくしていただきありがとうございます。最後に、松井先生に巡り会えて本当に良かったと、心から哀悼と感謝を申し上げます。

合掌